



国際ロータリー第2800地区

鶴岡ロータリークラブ

例会日：毎週火曜日 午後12:30～1:30

例会場：鶴岡市錦町 東京第一ホテル鶴岡

事務局：鶴岡市馬場町11-63(産業会館3F) TEL 0235-28-3375

超私の奉仕

第2298回 例会会報 平成17年12月27日(火) 雪(本年度 第24回)

会長報告

加藤 功

ロータリークラブ設立の20世紀初頭の時代は、資本主義自由市場経済社会が欧米では資本蓄積期、自由産業段階を過ぎ、初期独占段階に入り変質過程にあったが、日本では未だ自由産業段階にあった。平田安吉は資本蓄積期と自由産業段階の明治初期、中期にかけて地域産業を起し、地域産業近代化の闘志として活躍した人物である。

まず略歴を紹介すると、1857～1896(安政4～明治29)年、平田家の跡継ぎとなる。平田家は代々手堅い商法が伝統で、江戸時代は庄内藩御用達として紙、煙草、蠟、陶器など各種の物産販売をてがけ、酒造、質屋など有力な商家であるとともに、風間、三井、真島などと並ぶ鶴岡、田川きっての地主として知られる。彼は、わずか20年たらずの間になした業績によって庄内地域の殖産興農立志伝中の一人に数えられ、また自由民権運動後期の影の中心人物とも称されている。

第二に、次々に新事業を開拓した殖産事業についてみると、安吉は、米穀・肥料の販売を主な家業として着実に財を成し、1881、2(明治14、5)年からの深刻な不況の中で買い手のない土地を手にいれ、それまでの平田家の所有地を田地50町歩から100町歩に拡大した。

そして25歳(1883)の時、狩川に入手した15町歩の山林に乳牛16頭を導入・飼育し庄内で初めて牛乳を販売した。1888年頃には鶴岡町内の土地(紙漉町8町歩、高畑町1.3町歩)に本県で初めてサクランボやリンゴ、枝豆などを栽培し、収穫物は自宅に付属した「店」で販売。また、1883年頃に、庄内浜に普及し始めた鮭の定置網事業に着目し三瀬の網元に資金を出資して水産業界にも進出した。

更に、安吉が目をつけたのが馬だった。当時、馬は荷役用に使われていて、運送の仕事は荷主と馬主

の個人契約により行われていたが、安吉は初めて企業としての馬による運送業を始めたのだ。この馬の導入は、後に水田の乾田馬耕につながっていくことになる。

さらにまた、安吉は蚕糸業界にも進出する。弟の米吉を福島に派遣して研究させた後八坂町(現、大東町)に製糸工場を建設した。当時、鶴岡の蚕糸業は旧士族が一手に握っていたが、町方の経営になるのはこの工場が第一号だった。後に、米吉は横浜に進出して羽二重の輸出を手掛けた。

第三に、庄内における乾田馬耕の父であり、農事改良事業に着手し、振興した。それまで西回り航路で輸送され大阪・江戸などの大消費地で名声を高めた庄内米も、時代が進み交通手段と流通市場が近代化して大量の陸上輸送が可能になると、他産地との競争が激しくなり大きな転機を迎えていた。このような状況の中で、安吉は庄内米の市場価値を高めるため乾田馬耕法に着目した。

1889(明治22)年、安吉は先進地福岡県に出向き乾田馬耕を実地に研究した後、庄内の進歩的な地主仲間と組織を結成しその普及に着手、翌年には福岡から専門家を招いて各地に模範田を設け技術の導入に努めた。その結果、1907(明治40)代には庄内の平野部の大部分に乾田馬耕が普及し、多肥多収穫栽培という稲作技術の一大革命となった。

第四に、政財界への進出である。このように、安吉は乾田馬耕の普及と米の品質改良運動を展開する一方、政財界へも積極的に進出していった。

庄内銀行の前身である六十七銀行の役員をはじめ、県勸業諮問委員などの公職を経て、1889(明治22)年町制施行に伴う初の町会議員に当選し、町方の代表として自由民権運動の推進者として旧藩閥勢力に対抗していく。

この背景には、当時の鶴岡の産業が旧藩士たちにより独占的に支配されていたという特殊事情があった。製糸業、流通界では米取引所など、さらにそれ

車が動いていない時は

ストップ! アイドリング

らを支える銀行も全て旧士族の人脈で押さえられていたのだ。

安吉の最大の目標は、鶴岡に米穀取引所を設けることだった。1895（明治28）年、取引所法公布を機会に、安吉は鶴岡米穀取引所を設立、さらに貯蓄銀行を開設して旧幕藩に対抗した。こうして庄内の経済近代化は安吉によって始まったといえる。御家禄派に代表される保守性の強い庄内という風土に、安吉のような進取の精神と積極性の塊のような人材が生まれた背景はなんだったのか。

とにかく、安吉がやることは自由民権主義者として地域の近代化を図る使命感に裏付けられたものだった。

なお、鶴岡公園旧二の丸北側に平田安吉の遺徳碑が立っており、碑文の末にはこう記されている。「奨学資金の貸付や酒田地震における被災者への金品の施与などの慈善事業を行っていますが、それらは公には秘し些かも名誉欲はなかったといえます。」

（参考資料「教育つるおか」1992、「こぼえちや庄内」山新1981、「日本農業発達史 第5巻」中央公論社）



半年を振り返って

幹事 富樫松夫

私が鶴岡クラブに入会したのが、平成13年の7月です。そのときは私を含めて12名が入会しました。今現在同期の方で残っておられるのが4名だけです。3割しか残っていない。勿論転勤族の方もおられましたが、地元の人をもっと入れていかないと大変だなあと感じます。

入会して間もない時、嶺岸さんからインターアクトの地区委員になって欲しいと言われ、正直驚きました。何にも分からないのに地区の仕事が出来るんだろうかと思いました。いろいろ大変なこともありましたが、勉強させて頂きました。加藤現会長から幹事要請があったときは躊躇しました。会社で確井に相談したら、ロータリーは頼まれたら嫌とはいえないんだから、頑張れと言われ引き受けました。皆さんから助けられ何とかやっているのが現状です。

幹事として最初の壁は人事面でした。特定委員会のメンバーを決めていく中で、経験不足から適材適所という判断ができませんでした。予算書を作ること自体は問題ありませんでしたが、収支のバランスに苦労しました。会員数の減少が大きな問題だと思います。

社会奉仕委員会の「四つのテスト」や環境問題の取り組み、ICO委員会のホームページ作成など皆さ

んから御活躍を頂いております。ただ、委員長さんは頑張るけれども委員はあまり動かないという傾向があるのではないのでしょうか。

上期も終わりました。下期は丸山会長エレクトのペッツが終わるころには、我々の活動も少なくなっていくと思います。下期の重点項目としては、台中港区の35周年記念式典、東京東江戸川ロータリークラブの桜が咲くころの記念例会、第2ブロックのIMがあります。IMには入会5年未満の会員は義務出席となるようです。5年以上の会員も含め予定しておいて頂きたいと思います。

半年が終わったとは言え、いろいろやるべきこと、課題がたくさん残っております。是非皆さんから絶大な御協力をお願いして幹事としての話しを終わります。

委員会報告

●親睦委員会

委員長 上野欣一

鱈汁例会のご案内

日時：平成18年1月24日（火）PM18:30

会場：三瀬 坂本屋

登録料：会員4,000円 家族2,000円（当日持参）

申込〆切：1月17日（火）の例会終了後まで

●出席委員会

委員長 阿蘇司朗

本日の出席		前々回の出席	
会員数	47人	出席率	61.36%
出席数	25人	修正出席数	31人
出席率	56.82%	確定出席率	70.45%

●メイクアップされた方

藤川享胤君・加藤 功君・丸山隆志君

佐々木喆彦君・高橋良士君・富樫松夫君

スマイル

丸山隆志君 先週のクリスマス家族例会出席と出しておりましたが、山形出張が長引き出席できませんでした。お詫びのスマイルを致します。

富樫松夫君 御清聴ありがとうございました。来年も頑張りますのでよろしくお願いします。

上野欣一君 クリスマス家族例会では、多くの皆様の御協力により盛会に終了することが出来ました。親睦委員会として感謝いたします。

嶺岸禮三君 会社の都合により本日の会報を休ませて頂きました。来年戌年を迎え、年男の方には恒例の年男スピーチをお願いしたいと思います。よろしく。